

# 木工遊び

## 札幌市立ひがしなえぼ幼稚園（北海道札幌市） [5歳児]

<ねらい> 「木」という素材に触れ、様々な角度からイメージをふくらませ、構成したり発見したりする楽しさを味わう。  
 じっくりと目的に向かう充実感や、自分の力で頑張ることの満足感を味わう。  
 友達と力を合わせてできた喜びを感じる。  
 道具を使い、ものを作る楽しさを味わう。

### 1. 幼児の姿（6月） \*感じる（きっかけ） 気付く 考える・工夫する 伝え合う

<p>&lt;刺激される様々な感覚・感性&gt; （きっかけ）  <b>（保育者が木工をする様子から感じて）</b>                  「なんかいい匂いする！レモンの匂いだ」                  「どこからするんだ？...あ！この粉だ！（おがくず）」</p>	<p><b>（友達の言葉に反応し、確かめている）</b>                  「（匂いを嗅ぐ）ほんとだ。じゃあこの木も匂いがするはずだ！」                  「（木の匂いを嗅いで）うん！するする」</p>
<p>&lt;友達の様子に気付く&gt;  <b>（友達が同じような木を使っていることを感じて）</b>                  厚い木材の下に薄い木材を置き、上から短い釘を打っているA児の隣では、同じ木材を使っているが薄い方の木から打っているB児がいる。                  A児は保育者に「先生つかない」と言う。</p>	<p><b>（情報を伝え合う）</b>                  B児「僕はできたよ」と言う。                  側で見ていたC児は二つを見比べて「大きい釘ならうまくいくよ」とA児に伝える。</p>
<p>&lt;アンテナを張り巡らしている&gt;  <b>（体験して分かったこと気付いたことがある）</b>                  C児は自分の製作中はもちろんのこと、友達が取り組む様子、教師がのこぎりやくぎ抜きを使う様子をじっと見ている。</p>	<p>こっちの釘の方がいいんじゃない？</p>
<p>&lt;目的をもって作る&gt;  <b>（継続することでイメージが広がる）</b>                  H児は、背中に子どもが乗っているキリンを作り上げた。（じっくりと作り上げ、自信をもって発表したことが認められ、さらに自信になる）                  I児は、テーブルを作った。テーブルの足は4本が同じ長さでなければならないことに気付いた。</p>	<p>おさえてあげるからがんばって！</p>
<p>&lt;自分の力を感じている&gt; <b>（必要な知識や技能の獲得により見通しがもてる）</b>                  C児は、なかなか打ち込めない友達を率先して手伝ったり、釘の大きさについてアドバイスしたりしている。くぎ抜きの扱い方もいつの間にか習得している。                  J児は、3本の細い木を組み合わせようと、黙々と取り組んでいた。誰にも頼らず自分でしたい思いが強かったのだろう。「こうすればできそう」という自分なりの見通しの下、自分の力を信じていたのではないか。</p>	<p><b>（情報を伝え合う）</b>                  同じように作りたい友達が、作り方や材料についてアドバイスを求める。H児I児は快く応じる。</p>



### みどころ

木片、金槌や釘など木工用具があり、保育者も木工をする魅力的な環境で、木片の匂いに心が動き「木工遊びをしたい」と興味を引き出されています。製作するもののイメージや目的をしっかりとついで、「釘をどのように打つか」「木をどのように組み合わせるか」など、考えなければならない状況が生じて、考えや工夫が引き出されています。友達の様子からヒントを得たり自分の考えを伝えたりするかわり合いがあることで、自分の考えや工夫、自分の進めている製作活動のよさを自覚し、自信をもつことに結びついていると同時に、さらに工夫して製作しようという意欲や技術につながる事が期待できます。